

大阪発元気な企業 ②

バイオリンク販売

顧客目線の品質保持と新たな展開図る、EGFブームの火付け役

今やエイジングケア化粧品素材として常に上位にランキングされる人気のEGF。このブームの火付け役が(株)バイオリンク販売(大阪市中央区)だ。EGFは上皮細胞再生因子などと呼ばれる皮膚の再生を促す成長因子とされ、53個のアミノ酸からなる活性ポリペプチド。同社の代表での社長は、日本ではまだ無名だったこの素材にいち早く注目、EGFの研究を進め、その配合化粧品を発売するや化粧品美容液などの基礎化粧品に数多く採用される大ヒット成分となった。さらに同社は日本EGF協会とも連携し、EGFの規格基準の策定や品質の保持にも尽力。今やEGFなどを配合した各種商品の販売やOEMを手がけるパイオニア企業として評価を受けている。「いかにお金をもうけるかではなく、いかにお客様に支持される商品をつくりヒットさせるか。無名だったEGFがここまで浸透したのも、そうした姿勢が認められたからでは」という。

同社では医薬品基準で生産されている安全性の高いEGF原料のみを使用しているが、遺伝子組み換えという新しい分野での製造法の原料だけに、原料に関する間違っただけのメーカー情報を鵜呑みにしないよう注意喚起もしている。

「最近、韓国と日本との共同開発でEGF製造に関する最新の特許を取得したかのような情報があるが、我々で精査したところ、これは融合タンパクによる製造法

で時代遅れのものであった。この方法だと本来EGFは53個のアミノ酸で構成されるはずが54個になっていたり、内毒素が高く医薬品レベルでは使えない。最新の医薬品レベルでの製造基準は分泌発現法によるもので、これこそが自然のEGFとまったく同じものを生産できる方法であり、間違っただけの情報を信用しないようにしてほしい。」という。

また、内外美容の概念が消費者に浸透し始めると、2008年に本邦初のEGF配合サプリメント『EGFエクストラサプリメント』を開発、化粧品同様のヒット商品にする。今夏にはこの商品をグレードアップ、『新EGFエクストラサプリメント』として新たな訴求を開始した。「現在、EGFの醗酵法での製造過程が遺伝子組み換え技術にあたるかどうか、また遺伝子組み換え技術に該当するとした場合の安全審査を食品安全委員会が審査中のため、万を期してその対応策として今回のリニューアルに踏み切った」という。今回のリニューアルでは、これまで配合していたヒトオリゴペプチド-1のかわりに、凍結乾燥した希少性の高い山羊ホエイパウダーを配合したのが一番の特長。「独自の研究と開発技術により、美肌成分豊富なヤギホエイを凍結乾燥する事に成功。これにより、天然由来のEGFの含有が高く安全な食品組成物が得られる、という特許を出願中」という。